

平成20年12月11日
総務省

1 目的

- 3.9世代移動通信システム及び2GHz帯におけるTDD方式を活用した移動通信システムに関して、免許方針等の検討の参考にするため、有識者を交えて、公開でヒアリングを実施。

2 開催日時等

- 日時：平成20年11月7日（金） 13:15～16:30
- 場所：総務省 講堂（地下2階）

3 ヒアリングの概要

- 3.9世代移動通信システム等の導入の具体的な計画を有している者より意見陳述を順次行った後、有識者による質疑応答を実施。

(1) ヒアリング内容

- ア 導入に向けた取組（導入を計画するシステム、サービス内容、エリア展開等）
- イ 免許方針に対する意見（割当周波数幅、事業者の選定要件、競合が生じた場合の選定基準等）

(2) 有識者

- 服部 武 上智大学 理工学部 電気・電子学科 教授
- 酒井 善則 東京工業大学大学院 理工学研究科 教授
- 徳田 英幸 慶應義塾大学 環境情報学部 教授
- 北 俊一 野村総合研究所 上級コンサルタント

(3) 意見陳述人

- 携帯電話事業者4社（NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイル、イー・モバイル）

各社の意見陳述の概要



- ✓ 世界の先頭集団として、2010年からLTEを導入したい。LTEは、2GHz帯に5MHz幅から導入したい。
- ✓ 1.5GHz帯は、「LTE導入」、「2GHz帯にLTE導入する際の移行バンド」の2つのシナリオを検討。複数競合になった場合でも、10MHz幅以上が望ましい。また、全帯域において、3G、LTE両方を柔軟に運用できることが望ましい。
- ✓ データトラフィックの急増により周波数が逼迫している状況。東名阪だけでなく、地域の大都市（例えば、九州）でも周波数逼迫が深刻。



- ✓ 1.5GHz帯に、2012年以前にLTEを10MHz幅で導入したい。このため1.5GHz帯は10MHz幅以上の割当てが望ましい。
- ✓ 1.5GHz帯以外の既存周波数帯においても、3G、LTE両方を効果的かつ柔軟に導入できることが望ましい。



- ✓ 1.5GHz帯は、2010年頃から音声サービスを確実に提供するためHSPA Evolutionを導入し、将来的にLTEへ移行したい。
- ✓ 1.5GHz帯は、当該帯域での過去の実績等を優先して割り当てることが望ましい。
- ✓ 1.5GHz帯は、最終的にLTEで利用することを考慮すると、10MHz幅以上の割当てが望ましい。



- ✓ LTEの導入について、他社とのイコールフットイングを望む。データ通信サービスにおける通信速度の優位性を確保していくことが経営戦略。
- ✓ LTEの実現時期までは、1.7GHz帯東名阪バンドを使用して、DC-HSDPAを導入したい。
- ✓ LTEは、1.7GHz帯全国バンドに、2011年頃から10MHz幅で導入したい。1.7GHz帯が難しい場合は、1.5GHz帯で導入したい。
- ✓ 3.9世代サービスは、各社とも10MHzを上限（1.5GHz帯でのLTE導入も10MHzを上限）にして欲しい。

今後のスケジュール

2008年
11月7日 12月11日

2009年

春頃

2010年
春以降

